第 94 回歴史探訪の会 「足利義満が創建した相国寺の歴史を学ぶ」

日　時:　令和 6 年 7 月 17 日（水曜）
場　所:　京都市・上京区
世話人:　森　尚夫

コース：京都市営地下鉄・今出川駅→相国寺→京都御苑（昼食）→承天閣美術館（解散）

日差しはさほど無いものの、たいへん蒸し暑い、京都らしい気候のなか、「お試し参加」の方も含めて 33 名の方に参加を頂きました。相国寺ではこの時期一般の拝観を受付けていませんが、社友会会員の方のご紹介で、私達のグループのみが、お寺の方の案内、説明を受けながらゆっくりと拝観する事が出来ました。昼食後は、相国寺に係わる多くの国宝、重要文化財などを展示する承天閣美術館を訪れました。

尚、相国寺では写真撮影禁止の場所が多く、建物内部等を写真でお見せする事が出来ないのがたいへん残念です。

新入会者の紹介、今日のコースの案内

相国寺へと向かう

【相国寺(しょうこくじ)】

臨済宗相国寺派の大本山ので、山号は萬年山（まんねんざん）。ご本尊は釈迦如来。
足利将軍家や伏見宮家および桂宮家ゆかりの禅寺で、京都五山の第二位に列せられている。
相国寺は五山文学の中心地であり、画僧の周文や雪舟は相国寺の出身である。境内には多くの塔頭の他、御水尾天皇の歯髪塚がある。又、有名な鹿苑寺（金閣寺）、慈照寺（銀閣寺）は、相国寺の山外塔頭（さんがいたっちゅう）である。

（注）京都五山の寺格	別格	南禅寺
	第一位	天龍寺
	第二位	相国寺
	第三位	建仁寺
	第四位	東福寺
	第五位	万寿寺

室町幕府 3 代将軍 足利義満が 1392 年に夢窓疎石（むそうそせき）を開山（寺院を創始すること、及び寺を創始した僧侶、初代住職を指す）として創建された。足利義満が左大臣の職にあり、その職の唐名が「相国(しょうこく)」であったことより「相国寺」と名付けられた。

境内は京都御所の真北に位置し、最盛期には東は寺町通り、西は大宮通り、南は、現在同志社大学が建つ辺りも含めて一条通り、北は上御霊神社との境までもが相国寺の寺域であった。
応仁の乱による焼失後、三門と仏殿は再建されることなく、近世以降は法堂が仏殿（本尊を安置する堂）を兼ねている。明治時代には廃仏毀釈により、寺は困窮し、多くの塔頭が統合、廃絶され、跡地には同志社大学や、府立鴨沂高校が建てられた。

- 法堂（重要文化財）
  無畏堂とも呼ばれるが、現在、この寺には仏殿がなく、仏殿も兼ねているため本堂とも呼ばれる。現在の建物は、1605 年に豊臣秀頼が米 1 万 5 千石を寄進して再建されたものだが、この時点で 5 回目の再建であった。日本で現存する法堂建築としては最古のものである。
  本尊である釈迦如来坐像と脇持の阿難尊者像、迦葉尊者像は運慶による作とされる。

  天井のドーム状になった部分には蟠龍図があり、狩野光信の手による。特定の場所で手を打つと反響するため、「鳴き龍」と呼ばれている。参加者は順番に定められた場所で手を打ち、音が反響する事を確認した。又、この蟠龍図の龍の眼はどこから見ても自分の方を見ているように描かれています。

  堂内には相国寺ゆかりの足利義満の他、豊臣秀吉、豊臣秀頼、明智光秀など歴史上著名な人、寺の発展に寄与した人達の位牌が並んでいる。

法堂の外観

- 方丈（京都府指定有形文化財）
  方丈とは 1 辺が 1 丈（約 3 メートル）の正方形を意味する言葉で、そこから禅寺では住職の住居を指すようになった。
  1807 年に再建され、表方丈・裏方丈を合わせて六間168畳の大建築で、文字絵の法華観音図、御所参内用の駕籠を見る事が出来る。表方丈、裏方丈両庭園の対比が大変美しい。

表方丈	竹の間	裏方丈	琴棋書画の間
	室中の間		御所写しの間
	梅の間		聴呼の間

扁額「方丈」は中国の名筆家・張即文の筆。方丈と周りの杉戸絵、琴棋書画の間の琴棋書画図、聴呼の間の八仙人図は原在中の筆。竹の間の竹図は浄土宗の僧・玉潾の筆。梅の間の老梅図は伊藤若冲の弟子で相国寺第 115 世・維明周奎の筆。御所移しの間にある吉野山桜図は御所の清涼殿より拝領したもので、土佐光起の筆とされている。

方丈にての解説

- 開山堂（京都府指定有形文化財）
  開山・夢窓疎石像を祀る堂で、桃園天皇の皇后・恭礼門院の女院御所内にあった黒御殿を 1807 年に下賜されて現在地に移築したもの。礼堂と祠堂で構成されている。
  堂内には円山応挙、応瑞の筆とされる芭蕉小狗子図の杉戸絵がある。

開山堂と開山堂庭園

奥が山水庭園で、手前が枯山水庭園となっている。山水庭園にはかつては水が流れていた。

境内の内外には多くの塔頭があり、境内外には有名な金閣寺（鹿苑寺）寺と銀閣寺（慈照寺）がある。金閣寺は相国寺と同様に足利義満により、又、銀閣寺は足利義政により建てられており、相国寺と足利家との関係が深いことがうかがえる。

相国寺にて （背景の建物は庫裏）

相国寺拝観の後、京都御苑内での昼食風景

【承天閣美術館】

昼食後、再び相国寺境内に戻り、承天閣美術館にて常設展示「伊藤若冲」、期間限定「頂相―祖師たちの絵姿」を拝観しまた。

承天閣美術館は、相国寺の境内にある美術館で、相国寺創建 600 年記念事業の一環として 1984 年に開館。相国寺、及び相国寺の山外塔頭である鹿苑寺（金閣寺）や慈照寺（銀閣寺）などが所有す

る墨蹟・絵画・工芸品等の文化財（国宝 や国の重要文化財を多数を含む）を収蔵・展示しています。
名前にある「承天閣」は相国寺の詳名「相国承天禅寺」に由来します。

承天閣美術館の展示品を鑑賞

世話人からの説明

金閣寺のレプリカ

（参考） 足利義満について

足利幕府第 3 代将軍で、足利尊氏の孫にあたる。10 歳と云う若さで第 3 代将軍についた。
足利義満のなし得た事は約半世紀におよんだ南北朝の統一を果たした事と言える。又、京の室町に「花の御所」と呼ばれた邸宅を構えた。この時代を室町時代と呼ぶのもこの為である。「花の御所」と呼ばれたのは、京の公家や寺社より、名木、名花をゆずり受け（無理やりにゆずらせたとも言われているが）邸宅に移植したことに由来する。

義満の時代は足利 15 代の将軍のなかで最も将軍の権力が強かった時代であり、権力と明との貿易で得た財力を背景にかなり専制的な統治を行い、「天皇家乗っ取り」を企てたと云う説を唱える識者もいます。

確かに、義満は、まさに御所を見下ろす高さ約 109 メートルの七重の塔を相国寺の境内に建てた。この塔は 3 度に渡る落雷により焼失し、その後は再建されていないが、明治時代になるまでこれより高い建造物は建てられなかった。又、足利義満が建てた金閣寺は 3 層構造となっているが、1 階部分は寝殿造り、2 階部分は武家造り、3 階部分は禅宗仏殿造り、となっている。これの意味するところは天皇や公家の上に、武士、その上に禅宗の僧がいる（義満は後に出家し、“道義”と自らを称しています）と云う考えを具現化したものとも受け取れる。

義満の死後は、将軍の権力は弱まり、三管領四識による合議制で幕府の運営がなされたが、これにより地方守護大名の力が相対的に強くなり、応仁の乱から戦国時代へとつながっていったと言える。